

# 傾性的要因が従業員のストレス耐性に及ぼす影響

## Dispositional factors affecting stress tolerance

西 田 豊 昭\*

Toyoaki NISHIDA

### 1. 問題

1990年代後半以降、多くの日本企業が人事評価制度に成果主義を導入してきた。その結果、現在、上場企業の80%以上が何らかの形で成果主義に基づいた人事評価制度を運用しているといわれる。

成果主義に基づいた人事評価や人事考課は、必然的に従業員のストレス（ストレッサー、ストレイン）を増大させてきた。それに耐えきれず疾病を患い休職や退職をする人も増え続けている。しかし、企業も厳しい競争にさらされ、組織も個人もより一層の効率化や活性化が求められている中で、大きなストレスと向き合っていかなければならないのも事実である。組織の中でストレスがあるのは当然であり、それを乗り越え、踏みとどまることができるかどうか、つまりストレスに対して抵抗力のある人材（ストレス耐性のある人材）を企業は求めざるを得ない状況になってきたといえよう。今後、採用場面だけではなく、評価基準の1つとしてストレス耐性やストレスに対処することができる個人の能力が重視される可能性が高い。しかしこれまでは、ストレスをいかに抑え込むかということに重点が置かれ、それを乗り越え成功する人々の特性にはあまり焦点が当てられてこなかった。

ストレスに関しては、環境からの刺激により、個人の対処能力に負荷がかかったり超過したりした場合、心理学的・生物学的に変調が生じ、その結果として何らかの疾患のリスクが高まるとされている。実際、病気のなかにはストレスに起因するものも多くあると考えられている。

その一方で、適度なストレスは生体の維持には欠かせないものでもある。不安や緊張感などを全く経験せずに生活している人はいない。人間は日常生活の中で多少のストレスに常にさらされ続けているのである。このようなストレスが組織の中で問題になるのは、それが過剰になりすぎる場合である。個人がそれに耐えきれずに様々な問

\*経営学科－組織心理学

Department of Management – Organizational Psychology

題が生じることになるからである。しかし、同じストレスフルな状況下でもすぐに病気になる人と、逆にそれを糧に成長し続け成功を収める人もいる。このような個人差はどこから生じるのか。ストレス耐性と個人の特性との関係を検討することにより、個人の職場適応や支援のあり方に関して何らかの示唆が得られると考える。

## 2. 理論的背景と目的

### 2.1 傾性的アプローチ

産業・組織心理学において、傾性 (disposition) とはパーソナリティの概念よりもやや広くとらえられており、「パーソナリティ、要求状態、態度、パフォーマンス、動機を含む心理学的な個人差」と定義される概念である (House, Shane, & Herold, 1996)。したがって、産業・組織心理学における傾性的アプローチ (dispositional approach) とは、個人の何らかの態度や行動は、個人に固有なパーソナリティを含む傾性によって決定されているという前提に基づくものである。このような傾性的アプローチは、産業・組織心理学の初期のころからすでに注目されていた。また、傾性的アプローチは特に職務満足 (job satisfaction) の領域において議論されることが多く、個人のパーソナリティが職務満足の重要な決定要因になることがいくつかの研究で報告されている (Staw, Bell, & Causen, 1986)。近年、精神医学の影響から、パーソナリティが職務態度や行動に及ぼす影響に関して、遺伝子レベルにまで言及し、検証しようとする試みも行われている (Arvey et al. 1989)。

### 2.2 レジリエンス (resilience)

これまでのストレスに関する研究では、ストレインの低減については数多くの研究がなされてきたが、その回復のプロセスについては十分な研究がおこなわれてこなかった。

近年、ストレスフルな状況を乗り越え、克服する能力としてレジリエンス (回復力) という概念が注目されてきている。この理論は特に臨床心理学の分野で注目される概念であり、教育・経営の分野でも適用されつつある。

レジリエンスは、困難な状況下で、心理状態がネガティブな状態に陥っても、それを回復できる個人の心理面における弾力性と定義されている (Masten, Best, et al 1990)。

また、レジリエンスが高い人の特徴として、自ら意思決定し実行する意志の強さ (Werner, 1986)、問題解決への意欲 (Losel, Bliesener & Kofertl, 1989)、楽観的な傾向 (Kumpfer & Hopkins, 1993)、他者の支援希求傾向 (flach, 1997) などが見いだされている。国内でも石毛 (2004) の中学生を対象にした調査により「意欲

的活動性」「内面共有性」「楽観性」の3因子が見いだされている。

レジリエンスの概念では、ストレスによるダメージを受けた後の心理面での回復性に重点を置いているのが特徴である。

### 2.3 ハーディネス (hardiness)

レジリエンスと類似した概念としてハーディネスがある。ハーディネスとは「高ストレス下でも健康を保っている人々が持つ性格特性」と定義される概念である (Kobasa, 1979)。下位概念として「コミットメント」「コントロール」「チャレンジ」の3因子が見いだされている。もともと、ハーディネスは大きな変化のあった企業で、ストレスフルな状況の中でも病気にならずに成長し続けた人々の研究の中から発見された。その後、ハーディネスがストレス状況下で人々のストレス反応に与える影響が多数報告されてきた (Maddi, 2002)。レジリエンス概念では、ストレスによる苦痛から立ち直ろうとする回復力を強調しているのに対して、ハーディネスではストレスに挑む強さ（頑強性）を強調しているのが特徴的である。

つまりハーディネスでは、ストレスをポジティブでコントロール可能なものとしてとらえ (Kobasa, 1979)、ハーディネスが高い場合は、ストレスをストレスフルな状況として知覚せず、不健康に陥らないとしている (Banks & Gannon, 1988)。つまり、ハーディネスはストレスに打ち勝つ力（防御力）であり、ストレスに対する抵抗力と言える。ハーディネスが高い人の特徴として「コミットメント」「コントロール」「チャレンジ」の3つ下位概念が見いだされているが、ハーディネスのストレス反応への影響は3要素が一貫して高い時に有効であるという指摘もあり、単次元との特性としてとらえるべきという議論もある (Maddi, 2002)。

### 2.4 目的

本研究の目的は、個人の傾性的要因であるパーソナリティや気質とレジリエンスおよびハーディネスとの関連性について探ることにある。

我が国においては、特に従業員のメンタルヘルスが問題になっており、「社会人の心の健康」に関する問題について個人の傾性要因とレジリエンスおよびハーディネスを関連付けて検討することは極めて重要であると考えられる。また、これまでのレジリエンスに関する研究の多くは幼年期・青年期のものが中心で社会人を対象にしたものが極めて乏しい。また、レジリエンスとハーディネスを同時に調べた研究も少ない。そこで、本研究では、社会人を対象に実施したレジリエンスやハーディネスと個人のパーソナリティや気質のデータを用い、組織で働く人々のストレス耐性（レジリエンスおよびハーディネス）を規定している個人のパーソナリティ特性と気質を明らかにすることを目的とする。

### 3. 手続き

製造業、サービス業、金融業、教育産業、商業、公務員、コンサルティング会社、製薬メーカー等、さまざまな企業37社に勤務する人々を対象に調査を実施した。対象企業の人事部の協力を得て、質問項目を紙（冊子）とWebにより提示し、410名から有効な回答を得た。

データの構成は性別：男性267名（65.1%）、女性140（34.1%）名、不明3名（0.7%）。平均年齢32.7歳、であった。

### 4. 測定尺度

#### 4.1 レジリエンス

過去のレジリエンス尺度（Wagnild & Young, 1993; Jew, Green & Kroger, 1999; 小塩ほか, 2002; 長尾ほか, 2008）を参考に、「内省傾向」、「関係希求傾向」、「楽観性」の3つの下位概念から成る計15項目のレジリエンス項目を作成。回答方法は4段階評定で実施した。

#### 4.2 ハーディネス

Kobasa（1979）が開発したハーディネス測定尺度を参考に10項目の測定尺度を作成。回答方法は4段階評定で実施した。

#### 4.3 パーソナリティ

本研究では、日本語版16PF（第5版）の中のB因子（推理）を除く15因子を用いた。16PFパーソナリティ質問紙（Sixteen Personality Factor Questionnaire）は、60余年前にR. Cattellによって開発され、世界30カ国以上の言語に翻訳され使用されている尺度で、信頼性、妥当性は確かめられている。今回はその第5版（185項目）の中の96項目を修正して使用した。

16PFでは、16尺度中15尺度と印象管理（IM）を測定する尺度については、二者択一の質問項目に対して、aかcのどちらかの回答を選ぶようになっており、どうしても答えられない場合はbの“？”を選択するようになっているが、今回は、中間の回答を“？”とせず、「どちらかといえばAに近い」「どちらかといえばBに近い」という選択肢を加え4段階評定で実施した。

#### 4.4 気質

Cloningerのパーソナリティの7次元モデルでは、パーソナリティの構成概念を気

質 (temperament) と性格 (character) に大別し、気質の4次元と性格の3次元を想定している (Cloninger et al. 1993)。

本研究では、この7次元モデルの中の、気質の4次元である、(1) 新奇性追求 (Novelty Seeking), (2) 「損害回避 (Harm Avoidance), (3) 報酬依存 (Reward Dependence), 固執 (Persistence), を測定するために、TCI日本語短縮版 (木島, 大内, 渡辺, 2002) を参考に32項目の気質測定尺度を作成した。

## 5. 結果

### 5.1 相関分析

レジリエンス、ハーディネスとパーソナリティ15因子、気質4次元の特性間の相関関係を調べるために、Pearsonの相関係数を算出した (表1)。相関係数は絶対値が.25以上を基準に検討した。

その結果、レジリエンスの「内省傾向」はパーソナリティの「自己主張性」( $r = .291, p < .01$ ), 「自立性」( $r = .285, p < .01$ ) と、気質の「固執」( $r = .398, p < .01$ ) との間で正の相関を示した。レジリエンスの「関係希求傾向」は、パーソナリティの「社交性」( $r = .470, p < .01$ ), 「活発性」( $r = .337, p < .01$ ), 「積極性」( $r = .251, p < .01$ ), 「懸念性」( $r = .352, p < .01$ ), との間で正の, 「孤高性」( $r = -.372, p < .01$ ), 「自立性」( $r = -.390, p < .01$ ) との間で負の, 気質の「報酬依存」( $r = .642, p < .01$ ) との間で正の相関を示した。また、レジリエンスの「楽観傾向」は、パーソナリティの「社交性」( $r = .392, p < .01$ ), 「情緒安定性」( $r = .427, p < .01$ ), 「自己主張性」( $r = .291, p < .01$ ), 「活発性」( $r = .427, p < .01$ ), 「積極性」( $r = .477, p < .01$ ), 「変革性」( $r = .329, p < .01$ ), と正の, 「孤高性」( $r = -.525, p < .01$ ), 「懸念性」( $r = -.513, p < .01$ ), との間で負の, 気質の「新奇性追求」( $r = .408, p < .01$ ), 「固執」( $r = .250, p < .01$ ) との間で正の, 「損害回避」( $r = -.646, p < .01$ ), との間で負の相関を示した。

一方、ハーディネスは、パーソナリティの「社交性」( $r = .363, p < .01$ ), 「情緒安定性」( $r = .480, p < .01$ ), 「自己主張性」( $r = .426, p < .01$ ), 「活発性」( $r = .385, p < .01$ ), 「積極性」( $r = .456, p < .01$ ), 「変革性」( $r = .405, p < .01$ ), と正の, 「孤高性」( $r = -.390, p < .01$ ) との間で負の, 気質の「新奇性追求」( $r = .337, p < .01$ ), 「固執」( $r = .405, p < .01$ ) との間で正の, 「損害回避」( $r = -.441, p < .01$ ) との間で負の相関を示した。

表1. 変数間の相関係数

|           | 1       | 2       | 3       | 4       | 5       | 6       | 7       | 8       | 9       | 10      | 11      | 12      | 13      | 14      | 15      | 16      | 17      | 18     | 19     | 20     | 21     | 22     |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| パーソナリティ   |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 1 社交性     |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 2 情緒的安定性  | .225**  |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 3 自己主張性   | .267**  | .231**  |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 4 活発性     | .438**  | .222**  | .381**  |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 5 規則遵守性   | .156**  | .077    | .188**  | -.111*  |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 6 積極性     | .318**  | .391**  | .503**  | .448**  | .141**  |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 7 感傷性     | .187**  | -.053   | .097*   | .032    | .200**  | .058    |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 8 警戒性     | -.264** | -.119*  | .051    | -.115*  | .075    | -.012   | .020    |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 9 空想性     | .013    | -.104*  | .069    | .086    | -.090   | .042    | .221**  | .026    |         |         |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 10 孤高性    | -.397** | -.179** | -.350** | -.455** | .048    | -.426** | .144**  | .338**  | .129**  |         |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 11 懸念性    | .061    | -.297** | .050    | -.074   | .225**  | -.127** | .255**  | .010    | .057    | .224**  |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 12 変革性    | .202**  | .127**  | .303**  | .311**  | -.169** | .252**  | .146**  | .038    | .289**  | -.204** | -.140** |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 13 自立性    | -.383** | -.024   | -.072   | -.353** | .044    | -.152** | .102*   | .264**  | .231**  | .462**  | .029    | .107*   |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 14 完璧志向性  | -.080   | .043    | .136**  | -.210** | .329**  | .037    | .078    | .072    | -.152** | .103*   | .269**  | -.090   | .077    |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 15 性急性    | -.113*  | -.193** | .237**  | .075    | .023    | -.002   | .221**  | .234**  | .117*   | .088    | .370**  | .098*   | .188**  | .064    |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 気質        |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 16 新奇性追求  | .133**  | .086    | .148**  | .328**  | -.297** | .259**  | -.191** | .048    | .225**  | -.306** | -.285** | .335**  | .002    | -.233** | .015    |         |         |        |        |        |        |        |
| 17 損害回避   | -.143** | -.360** | -.138** | -.300** | .226**  | -.334** | .280**  | .148**  | .065    | .521**  | .677**  | -.268** | .212**  | .272**  | .386**  | -.442** |         |        |        |        |        |        |
| 18 報酬依存   | .620**  | .089    | .279**  | .371**  | .256**  | .272**  | .341**  | -.283** | .000    | -.346** | .359**  | .080    | -.379** | .025    | .146**  | -.070   | .146**  |        |        |        |        |        |
| 19 固執     | .199**  | .185**  | .258**  | .116*   | .243**  | .266**  | .014    | -.057   | -.028   | -.207** | .015    | .128**  | .001    | .330**  | -.136** | .172**  | -.143** | .160** |        |        |        |        |
| レジリエンス    |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |        |        |        |        |        |
| 20 内省傾向   | .056    | .118*   | .291**  | .075    | .140**  | .197**  | .197**  | .058    | .174**  | .066    | .149**  | .222**  | .285**  | .193**  | .087    | .041    | .081    | .096   | .398** |        |        |        |
| 21 関係希求傾向 | .470**  | .072    | .234**  | .337**  | .114*   | .251**  | .233**  | -.144** | .011    | -.372** | .325**  | .092    | -.390** | .057    | .192**  | .019    | .103*   | .642** | .128** | .002   |        |        |
| 22 楽観傾向   | .392**  | .427**  | .291**  | .427**  | -.009   | .477**  | -.080   | -.197** | .047    | -.525** | -.513** | .329**  | -.192** | -.137** | -.228** | .408**  | -.646** | .148** | .250** | -.014  | .135** |        |
| 23 ハードイタ  | .363**  | .480**  | .426**  | .385**  | .000    | .456**  | .054    | -.159** | .064    | -.390** | -.241** | .405**  | -.060   | .038    | -.133** | .337**  | -.441** | .225** | .405** | .297** | .228** | .542** |

注) N=410 \*;p&lt;.05 \*\*;p&lt;.01

## 5.2 階層的重回帰分析

### 5.2.1 レジリエンス

パーソナリティと気質がレジリエンスに及ぼす影響を検証するために、レジリエンスの下位尺度（内省傾向、関係希求傾向、楽観性）を従属変数とする階層的重回帰分析を行った。予測変数としては、パーソナリティの下位尺度の15変数と、気質の下位尺度の4変数とし、外生変数として性別と年齢を用いた。分析結果は表2に示すとおりである。

第1ステップでは外生変数（性別、年齢）を、第2ステップではパーソナリティの下位尺度の15変数を、第3ステップでは気質の下位尺度の4変数を投入し、各段階でR<sup>2</sup>を算出し、R<sup>2</sup>の増加分のF検定を行った。その結果、第2ステップでも第3ステップでも決定係数に有意な増分が示された。

この結果から、レジリエンスの内省傾向に対しては、パーソナリティの「自己主張性」、「感傷性」、「懸念性」、「自立性」で有意な正の関係が、また気質の「固執」で有意な正の関係が示された。また、レジリエンスの関係希求傾向に対しては、パーソナリティの「情緒的安定性」、「警戒性」、「懸念性」、「性急性」で有意な正の関係が、「孤高性」、「自立性」で有意な負の関係が示された。また気質の「報酬依存」で有意な正の関係が示された。さらに、レジリエンスの楽観傾向に対しては、パーソナリティの「社交性」、「情緒的安定性」、「規則遵守性」、「積極性」で有意な正の関係が、「孤高性」、「懸念性」で有意な負の関係が示された。また気質の「新奇性追求」で有意な正の関係が、「損害回避」で有意な負の関係が示された。

### 5.2.2 ハーディネス

同様に、パーソナリティと気質がハーディネスに及ぼす影響を検証するために、ハーディネスを従属変数とする階層的重回帰分析を行った。予測変数としては、パーソナリティの下位尺度の15変数と、気質の下位尺度の4変数、そして外生変数として性別と年齢を用いた（表2）。

この結果から、ハーディネスに対しては、パーソナリティの「情緒的安定性」、「自己主張性」、「感傷性」、「変革性」、「自立性」で有意な正の関係が、「警戒性」で有意な負の関係が示された。また気質の「新奇性追求」、「報酬依存」、「固執」で有意な正の関係が、「損害回避」で有意な負の関係が示された。

表2. レジリエンス尺度とハーディネス尺度を従属変数とした階層的重回帰分析の結果 (N=410)

| 独立変数                      | レジリエンス   |              |          |              |          |              | ハーディネス   |              |
|---------------------------|----------|--------------|----------|--------------|----------|--------------|----------|--------------|
|                           | 内省傾向     |              | 関係希求傾向   |              | 楽観傾向     |              | $\beta$  | $\Delta R^2$ |
|                           | $\beta$  | $\Delta R^2$ | $\beta$  | $\Delta R^2$ | $\beta$  | $\Delta R^2$ | $\beta$  | $\Delta R^2$ |
| (ステップ1)                   |          | .042 **      |          | .054 **      |          | .007         |          | .003         |
| 年齢                        | -.199 ** |              | .151 **  |              | .069     |              | -.058    |              |
| 性別                        | -.082    |              | -.158 ** |              | .053     |              | -.015    |              |
| (ステップ2)                   |          | .251 **      |          | .440 **      |          | .632 **      |          | .504 **      |
| 性別                        | -.164 ** |              | .100 *   |              | .101 **  |              | .012     |              |
| 年齢                        | -.121 *  |              | -.095 *  |              | .084 *   |              | .005     |              |
| 社交性                       | -.009    |              | .229 **  |              | .190 **  |              | .110 *   |              |
| 情緒的安定性                    | .052     |              | .108 *   |              | .109 **  |              | .246 **  |              |
| 自己主張性                     | .199 **  |              | -.042    |              | .024     |              | .203 **  |              |
| 活発性                       | .070     |              | .009     |              | .093 *   |              | .084     |              |
| 規則遵守性                     | .036     |              | -.005    |              | .051     |              | -.057    |              |
| 積極性                       | .058     |              | .042     |              | .167 **  |              | .095     |              |
| 感傷性                       | .120 *   |              | .097 *   |              | -.031    |              | .058     |              |
| 警戒性                       | -.084    |              | .050     |              | -.050    |              | -.079    |              |
| 空想性                       | .033     |              | .021     |              | .076 *   |              | .010     |              |
| 孤高性                       | .018     |              | -.268 ** |              | -.191 ** |              | -.131 *  |              |
| 懸念性                       | .134 *   |              | .297 **  |              | -.398 ** |              | -.096 *  |              |
| 変革性                       | .097     |              | .005     |              | .118 **  |              | .190 **  |              |
| 自立性                       | .333 **  |              | -.226 ** |              | .012     |              | .124 **  |              |
| 完璧志向性                     | .095     |              | .040     |              | .025     |              | .080     |              |
| 性急性                       | -.086    |              | .192 **  |              | -.047    |              | -.127 ** |              |
| (ステップ3)                   |          | .083 **      |          | .056 **      |          | .027 **      |          | .053 **      |
| 性別                        | -.192 ** |              | .085 *   |              | .077 *   |              | -.027    |              |
| 年齢                        | -.105 *  |              | -.109 ** |              | .077 *   |              | .002     |              |
| 社交性                       | -.053    |              | .099     |              | .175 **  |              | .056     |              |
| 情緒的安定性                    | .043     |              | .104 *   |              | .092 *   |              | .230 **  |              |
| 自己主張性                     | .161 **  |              | -.048    |              | .017     |              | .182 **  |              |
| 活発性                       | .052     |              | -.009    |              | .072     |              | .052     |              |
| 規則遵守性                     | -.008    |              | -.057    |              | .075 *   |              | -.055    |              |
| 積極性                       | .018     |              | .044     |              | .130 **  |              | .039     |              |
| 感傷性                       | .128 *   |              | .020     |              | .005     |              | .091 *   |              |
| 警戒性                       | -.068    |              | .100 *   |              | -.062    |              | -.081 *  |              |
| 空想性                       | .037     |              | .028     |              | .065     |              | -.003    |              |
| 孤高性                       | .064     |              | -.258 ** |              | -.099 *  |              | -.025    |              |
| 懸念性                       | .100 *   |              | .138 *   |              | -.300 ** |              | -.044    |              |
| 変革性                       | .071     |              | .023     |              | .072     |              | .136 **  |              |
| 自立性                       | .284 **  |              | -.174 ** |              | .006     |              | .100 *   |              |
| 完璧志向性                     | -.006    |              | .043     |              | .039     |              | .050     |              |
| 性急性                       | -.033    |              | .144 **  |              | -.010    |              | -.083    |              |
| 新奇性追求                     | .008     |              | -.016    |              | .093 *   |              | .119 *   |              |
| 損害回避                      | .017     |              | .120     |              | -.224 ** |              | -.166 ** |              |
| 報酬依存                      | .045     |              | .348 **  |              | .029     |              | .091 *   |              |
| 固執                        | .338 **  |              | .016     |              | .034     |              | .177 **  |              |
| R <sup>2</sup> (Adjusted) |          | .340         |          | .525         |          | .647         |          | .536         |
| F値                        |          | 10.56 **     |          | 21.49 **     |          | 34.97 **     |          | 22.41 **     |

\*P&lt;.05 \*\*P&lt;.01

## 6. 考察

本研究の目的は、社会人を対象に実施したレジリエンス、ハーディネス、パーソナリティ、気質のデータを用い、組織で働く人々のストレス耐性（レジリエンスとハーディネス）を規定する傾性要因としてパーソナリティ特性や気質の影響を探ることで

あった。相関分析と階層的重回帰分析を通じてレジリエンスやハーディネスと、個人のパーソナリティや気質との関連性について検討した。その結果、レジリエンスの3つの下位概念ごとに関連性のあるパーソナリティ特性や気質が幾分異なるということが明らかになった。

例えば、レジリエンスが高い人（ストレスからの回復力が高い人）の中でも内省傾向の強い人は、自分の意見をはっきりと持った自立した人物であり、集団行動よりも単独行動を好み、何事も粘り強く最後までやり遂げようとするが特徴である（自主独立型）。次に、関係希求傾向の強い人は、社交的で自分をオープンにさらけ出し、人の話もよく聞くタイプ。ややせっかちだが、情にもろく感情的な面がある（オープン情動型）。最後の、楽観傾向の強い人は、社交的で、グループの中心になるタイプ。自分に自信があり、どのような時でも落ち着いて行動できる（社交的リーダー型）。

一方、ハーディネスが高い人（ストレスに対して頑強な人）の特徴としては、冷静沈着で自分の意見をはっきりと持ち、周りに流されない変革者であり、粘り強さも兼ね備えているというのが特徴である（冷静沈着な改革者型）。

本研究の結果から、レジリエンスやハーディネスは、それぞれ異なるパーソナリティや気質と関連性が高い可能性が示唆された。つまり、個人のパーソナリティや気質の違いがストレスからの回復のプロセスに影響を及ぼしている可能性があるといえよう。このことは、ストレスに直面した際、個人のパーソナリティや気質の違いにより、ストレス反応を軽減させる方法やプロセスの違いとなって表れると考えられる。

本研究では、ストレス耐性として、レジリエンスやハーディネスに影響を及ぼす個人内の要因を取り上げた。しかし、その他にも同僚との関係や仕事の条件など環境的な要因がこのようなストレス耐性にどのように関連しているのか、そのプロセスについても調べるのが重要であると考ええる。

また、今回はストレス反応については測定の対象としなかったが、今後はストレス反応についても同時に測定し、このようなパーソナリティや気質の違いがレジリエンスやハーディネスに影響し、最終的にストレス反応の低減にどのような影響を及ぼすか検討する必要があるだろう。

## 参考文献

- (1) Arvey, R. D., Bouchard, T. J., Segal, N. L., & Abraham, L. M. 1989 "Job satisfaction: Environmental and genetic components" *Journal of Applied Psychology*, 74, 187-192.
- (2) Banks, J. K., & Gannon, L. R. 1988, The influence of hardiness on the relationship between stressors and psychosomatic symptomatology. *American Journal of Community Psychol*, 16, 25-37.
- (3) Cloninger, C. R., Svrakic, D. M., & Przybeck, T. R. 1993 "A psychological model of

- temperament and character.” *Archive of General Psychology*, 50, 975-990.
- (4) Flach, F. F. 1997, *Resilience: How to bounce back when the going gets rough*. New York: Hatherleigh Press.
  - (5) House, R. J., Shane, S. A., & Herold, D. M. 1996 “Rumors of the death of dispositional research are vastly exaggerated.” *Academy of management Review*, 21, 203-224.
  - (6) Jew, C. L., Green, K. E., & Kroger, J. 1999, Development and validation of a measure of resiliency. *Measurement and Evaluation in Counseling and Development*, 32, 75-89.
  - (7) Kobasa, S. C. 1979, Stressful life events, personality and health: An inquiry into hardiness. *J. Personal. Soc. Psychol.* 37: 1-11.
  - (8) Kumpfer K. L., & Hopkins, R. 1993, Prevention: Current research and trends. *Recent Advances in Addictive Disorders*, 16(1), 11-20.
  - (9) Losel, F., Bliesener T., & Kofler, P. 1989, On the concept of invulnerability: Evaluation and first results of the Bielefeld project. In M. Brambring, F. Losel, & H. Skowronek (Eds.), *Children at risk: Assessment, longitudinal research, and intervention* (pp. 186-219)
  - (10) Maddi, S. R. 2002, The story of hardiness: Twenty years of theorizing, research, and practice. *Consulting Psychology Journal*, 54, 173-185.
  - (11) Masten, A. S., Best, K. M., & Garmezy, N. 1990, Resilience and development: Contributions from the study of children who overcome adversity. *Development & Psychopathology*, 2, 425-444
  - (12) Wagnild G. M., & Young, H. M. 1993, Development and psychometric evaluation of the Resilience Scale. *Journal of Nursing Measurement*, 1(2), 165-178.
  - (13) Staw, B. M., Bell, N. E., & Causen, J. A. (1986). “The dispositional approach to job attitudes: A life time longitudinal test.” *Administrative Science Quarterly*, 31, 56-77.
  - (14) Werner, E. E. 1986, Resilient offspring of alcoholics: A longitudinal study from birth to age 18. *Journal of Studies on Alcohol*, 47, 34-40.
  - (15) 石毛みどり, 2004, 中学生における精神的健康とレジリエンスおよびソーシャル・サポートとの関連: 受検期の学業場面に着目して *教育心理学研究*, 53, 356-367.
  - (16) 小塩真司, 中谷素之, 金子一史, 長峰伸治, 2002. ネガティブな出来事からの立ち直りを導く心理的特性: 精神的回復力尺度の作成. *カウンセリング研究* 35(1), 57-65.
  - (17) 木島伸彦, 大内健, 渡辺直登 2002. パーソナリティ尺度と医薬情報担当者の営業成績との関連性: 気質・性格尺度 Temperament and Character Inventory (TCI) を用いて *経営行動科学* 16巻2号, 151-161.
  - (18) 長尾史英, 芝崎美和, 山崎晃 2008. 幼児用レジリエンス尺度の作成 *幼年教育研究年報* 30, 33-39.
  - (19) 渡辺直登, 2004. 16PF (第5版) の国際共同開発とその応用」 *日本テスト学会第2回研究会発表会資料* [http://www.jartest.jp/pdf/jirei2\\_2.pdf](http://www.jartest.jp/pdf/jirei2_2.pdf)